

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

木更津市長 渡辺 芳邦

市町村名 (市町村コード)	木更津市 (12206)
地域名 (地域内農業集落名)	武田堰地区 (農業集落:大稲、真里、田面、赤坂、下内橋、瑞穂集落各一部／実質化された人・農地プラン:川田を含む) 大稲、真里、下内橋、戸国、茅野、真里谷
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年6月20日 (第3回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

【下内橋集落】

- ・水稲中心でミニトマトなどの施設野菜も栽培されている。
- ・隣接市である袖ヶ浦市の百目木宮農組合や農業者が耕作している農地もみられる。
- ・現在は認定農業者を中心にある程度の集約がされている。
- ・農業者の高齢化が進んでいる。(認定農業者も60代70代の人が多い。)
- ・農地の活用率は高く、休耕田(保全管理地)は少ない。
- ・幹線水路の左岸側の護岸の崩落箇所が多い。
- ・用水路の止め堰が人力管理されている。

【下川原・二階堂(開田)集落】

- ・水稲と露地野菜が中心である。
- ・隣接市である袖ヶ浦市の農業者が耕作している農地もみられる。
- ・昨年から認定新規就農者が露地野菜の栽培を始めた。
- ・下川原は認定農業者を中心にある程度農地の集約化がはかられている。二階堂(開田)は排水路がなく、砂地だったりするところがあり、休耕田となってしまうところが多い。また農道が狭く、保全管理されている休耕田も新たな耕作者を見つけづらい状況にある。
- ・U字溝の目地がはがれて崩れるなど用水路が老朽化し、小規模な環境整備が必要な箇所がある。
- ・下川原の西側に位置する小櫃川の河川敷に竹や草が生い茂っており、そこで発生する虫などが農地に影響を与えている。
- ・イノシシが出没して、作物や畦畔に被害が出ている。また畦畔が崩れ排水路が詰まるなどしている。

(2) 地域における農業の将来の在り方

【下内橋集落】

ほ場整備後に向けた農地集積を図るとともに、元々施設野菜の素地があることから、高収益な作物にも取り組むことにより農業所得の向上を図っていく。また環境整備や維持管理については現在耕作者中心に行っているが、耕作者の高齢化もあり、所有者を含めた地域ぐるみでの体制を整えていく。

【下川原・二階堂(開田)集落】

集落の農業維持のため、主要作物である水稲を安定的に生産するとともに、地域内外から多様な人材を確保する。また、新規就農者が定着できるように地域でサポートしていく。農地集積を図るためには小規模な環境整備が必要なことから、補助事業の活用も含めて検討していく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

【下内橋集落／下川原・二階堂集落】

農業振興区域内の農用地区域及びその周辺を、農業上の利用が行われる区域とする。
保全・管理等が行われる区域については、具体的な取組みが計画された場合に設定していく。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針

【下内橋集落】

ほ場整備後における水田利用は主に認定農業者が担い、高収益作物等の生産については、認定新規就農者等新規参入者の受け入れを促進する。集落又は土地改良区支区などが土地利用調整機能を発揮することで、機構を通じた担い手への面的集積の実現も図る。

【下川原・二階堂(開田)集落】

農地中間管理機構を活用し、認定農業者や認定新規就農者を中心に農地の集積を進める。

(2) 農地中間管理機構の活用方針

【下内橋集落／下川原・二階堂(開田)集落】

農地の貸し借りは、原則として農地中間管理事業を活用し、目標地図に位置付ける者への集約を図っていく。

(3) 基盤整備事業への取組方針

【下内橋集落】

地区の持続的な営農を確保するためには、ほ場整備は不可欠である。農業の生産効率の向上や農地の集積・集約化を図るため、適正な規模へのほ場区画の拡大、農道、用水路(パイプライン化等)や排水路、暗きょ排水の整備など、農地の基盤整備に取り組む。

【下川原・二階堂(開田)集落】

用排水が良くないことにより、田としての利用が難しい農地もある。今後農業者の意向を踏まえ、国・県の補助事業等の活用による負担の少ない形での農地の環境改善を目指していく。

(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針

【下内橋集落】

施設園芸を含め、出荷体制や経済性など地域に適した作物の導入を図るため、関係機関と連携し積極的に新規参入者の受け入れを図る。また、今後営農組合の設立も検討し、効率的な生産体制と地域内外からさまざまな経営体を受け入れやすい体制を目指していく。

【下川原・二階堂(開田)集落】

県、市、農業委員会や農協など関係機関との連携を図り、地域内外から多様な経営体の確保に努める。また、今後営農組合の設立も検討し、効率的な生産体制を整えていく。

(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

【下内橋集落／下川原・二階堂(開田)集落】

農業支援サービスを行う事業体の情報を地域内で共有し、適切なサービスを選択できるようにすることで、遊休農地の発生防止を図る。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☒ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

【下内橋集落】

②国際市況の影響を受けやすい肥料について、経営に合った施肥量の低減技術の導入を検討することで負担軽減を図る。

⑩省力化(新規技術)について、地域で情報の収集・共有を図り、規模拡大をしやすい環境づくりや所得の向上を目指していく。

【下川原・二階堂(開田)集落】

①イノシシが出ており被害も出ていることから、今後ワイヤーメッシュ柵等の設置を検討していく。